

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和4年3月5日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4690800034
法人名	医療法人 三徳会
事業所名	グループホーム 希望の家
所在地	鹿児島県出水市六月田町361番地 (電話) 0996-64-8802
自己評価作成日	令和4年2月11日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和4年3月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は、隣接する医院を母体としており、医院の多職種のスタッフとの連携を密に図り、利用者様やご家族様に安心して利用いただけるように努めています。また個別機能訓練計画書をもとに機能訓練を行い、筋力の維持、転倒予防、誤嚥予防、認知機能維持に努めるように取り組んでいます。併設しているデイサービスと共有スペースで畑作業を行ったり花植えなど楽しんでいます。

当事業所の理念である「ふれあい・技術・共有」を意識しケアに取り組み利用者様の表情やしぐさ、発する言葉を大切に思い、記録に残し申し送りでご々の状態を共有できるよう努めています。

食事は管理栄養士が作成したメニューでバランスの取れたものを提供しており平日の昼食、夕食は医院で作ったものを提供するなど協力を得ながらリクエストメニューと一緒に作り喜んでいただいています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは銀杏並木が美しい国道447号線沿いに市役所から車で約5分ほどのアクセスの良い場所に、デイサービス事業所と共に母体医療機関に隣接して建てられている。周辺には病院、ホームセンター、大型商業施設、その他多くの商店が立ち並び、新幹線と現在建設中の南九州西回り自動車道の間に位置し、賑やかな中にも田園も広がる自然豊かな地域環境にある。

地域と触れ合い、利用者の喜びや悲しみを共有して自立を支え、職員は利用者と一緒に過ごすことで気持ちに寄り添う介護を目指して理念を掲げ、職員は一体となって日々のケアが充実したものとなるように努めている。管理者は日頃より職員が気軽に話せる雰囲気作りに努め、希望休取得には可能な限り対応し、介護福祉士等の資格取得に対するバックアップや資格手当等の福利厚生の実施を図り、働く意欲が持てるような職場環境作りに取り組んでいる。

母体医療機関は整形外科を診療科目としており、毎月ホームでリハ会議を開催して利用者の状態に合わせたプランを作成している。コロナ禍のため外出が難しくなっている現在、機能訓練に取り組む時間が長く丁寧になり、個別リハにも力を入れて充実が図られている。月2回は主治医による訪問診療が行われ、母体医療機関からは看護師の派遣も行われて24時間連携体制が構築されているため、職員をはじめ利用者や家族の安心に繋がっている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	毎週グループホーム会議にて唱和している。目につく位置に掲示し実践に繋げている。	ホームの理念はユニット毎にダイルームに掲示し、職員は毎週1回のホーム会議で唱和を行い、ネームプレートの裏にも記載して常に確認しながら意識付けを図っている。管理者は日々の業務の中で理念に沿った支援となっているか確認し、職員間で意思統一を図るためにまず利用者の気持ちを中心に考えてケアが実践できるように努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルス感染拡大につきイベントなど開催されていない。	自治会に加入し、市報や自治会長から情報を得たり、近隣の散歩時に住民や知人と挨拶を交わし、地域住民から野菜等の差し入れをいただくなど、円滑な交流に努めている。住民だけでなく、母体医療機関の入院患者から認知症に関する相談を受けることもあり、専門性を活かして地域との協力関係を築いている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	コロナウイルス感染拡大より地域の行事が開催されていないが同法人内の患者様でお困りの方がいたら相談を受けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一回開催しサービスの向上につなげている。	会議は2ヶ月毎に自治会長(民生委員を兼務)・地域包括支援センター・家族・管理栄養士・理学療法士等が出席して開催し、6か月に1回はデイサービスと合同で開催している。ホームの運営状況報告・活動報告、行事参加、職員研修、ヒヤリハット、地域の情報等について協議し、サービスの向上や業務改善に繋げている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターの施設担当の方や介護保険課担当の方とは連携を図りわからないことがあったら連絡し相談している。	市担当者とはメールでのやり取りし、また電話や窓口に出向いてホームの運営やケアに関する相談・手続き等を行い、助言や指導をもらっている。また、社協による金銭管理利用者もあり、日頃から協力関係を築いている。コロナの関係で市主催の研修会等へは参加できていないが、外部研修の機会を見つけて参加できるように努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正委員会を中心に振り返る機会を設け身体拘束をしないケアを提供している。	「身体的拘束防止マニュアル」を作成し、年2回高齢者虐待防止関連を含めた勉強会を行って職員間で認識を深めている。身体拘束適正化委員会規定も作成して定期的に会議を開催し、不適切な言葉遣いに対しては職員間で注意し合っって身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についての理解を深めるために年に一回の研修を行っている。また年二回の面談でも確認している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について施設内研修を行い振り返り、学ぶ機会を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所にあたって利用者様、ご家族様の思いをくみ取り契約時にも再確認し理解いただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に外部への連絡手段を伝えている、また日頃よりご家族様への意見等尋ねている。	日頃から自分の意見や意向を伝えられる利用者が多く、色々な話ができるため把握しやすい。家族からは面会や電話等により意見・要望等の把握に努めているが、面会が少ない家族には管理者が連絡を取り利用者の様子を伝えている。現在はコロナ禍のため家族会等は活動を自粛しているが、「きぼうのいえ便り」に担当職員がコメントを添えて毎月家族に郵送し、近況を伝えてケアへの反映を図っている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に二回以上の面談で聞き取りを行っている。また日ごろからスタッフとのコミュニケーションを図る時間を設け意見を聞くようにしている。	管理者は日頃より職員が気軽に話せる雰囲気作りに努め、日々のケアを通してあるいはホーム会議や年2回の人事考課を見据えた個別面談で意見・要望等を聴取している。勤務シフトでは希望休取得に可能な限り対応し、勤務交代は職員間で譲り合いながら行っている。介護福祉士等の資格取得に対するバックアップや資格手当等の福利厚生の実を充実を図り、働く意欲が持てるような職場環境作りに取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修への参加・介護関係の資格取得を促し、給与基準の改善を行い、可能な限り休日の希望も聞いています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくを進めている</p>	<p>研修の年間スケジュールを立て、それに沿って研修を行うことで、ケアの質の向上に努めている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>コロナ禍でなかなか交流が難しいが、同じ系列の施設との情報交換を図り、お互いにサービスの向上ができるように取り組んでいる。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時の聞き取りと入所後のコミュニケーションの中から言葉の引き出しを心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の面談時や入所時など困り事を尋ねながら良い関係を築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	都度声をかけながら聞き取りを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	視聴したいテレビやしたいことを尋ねながら利用者様の意向に沿ったケアが提供できるように心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍の為、窓越での面会や電話での交流ができるようにご家族様へ連絡し少しでも顔を合わせていただけるように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の為、交流はほとんどできていない状況が続いている。	入居時のアセスメントや日頃の会話、家族からの情報等により、利用者毎の馴染みについて把握し、近隣の散歩・他科受診・友人や家族との面会・手紙の代読や代筆・月1回の訪問美容など、これまで利用者が培ってきた関係が途切れないよう支援に努めている。現在、家族との面会はダイルームや居室の窓越しで実施し、利用者を取り巻く環境が少しずつ変化している状況が見られている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体操や季節の催し、レクリエーションなど利用者様全体の参加を呼びかけ、お互いに声掛けやコミュニケーションが取れ馴染みの関係が持てるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	コロナ禍で退所後に他施設への面会などできていないが必要に応じて相談していただけるように声をかけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃から利用者様とコミュニケーションを図り気持ちに添えるケアが提供できるように努めている。	ほとんどの利用者がそれぞれの思いや暮らしの希望について伝えることが可能であり、家族やケアマネ等からの情報も得ながら利用者の意向を尊重して日頃の関わりの中で把握するように努めている。現在入居中の利用者はある程度自由に動くことができる人が多く、菜園の草取りや台所での調理・洗い物・洗濯物たたみ等を率先して行い、余暇時間の趣味活動では意欲を大事にして個別支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前にケアマネージャーからの情報やご家族様へも聞き取りを行いこれまでの生活歴が把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェックや心身状態の把握、利用者様の小さな変化に気づけるようにスタッフ間で連携を図っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	その時の状態に応じて気づいたことへのケアのあり方、ケアプランの更新時など利用者様、ご家族様の意向に添えるように関係スタッフ間で話し合いながら介護計画作成している。	利用者や家族の意向や希望、主治医をはじめ専門職の意見等を反映させ、担当職員が中心となって毎月モニタリングを実施し、利用者主体の介護計画を作成している。利用者のできない部分をしてあげるのではなく、できることを見つけていこうという視点で、サービス内容について毎日ケアチェック表で実施状況を確認し、利用者の状況に即した計画となるように取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人介護記録を記入し他のスタッフが必ず目を通し、情報を共有できるようにしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	異常時は医師や看護師、薬剤師、栄養士へ相談し連携を図りより良いサービス提供に努めている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で外に出る機会がない状況だが天候のいいときはできる限り外へ出るようにしている。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に二回の訪問診療を受けている。入所時に他科受診をされている方は継続して受診している。	元々母体医療機関である協力医療機関をかかりつけ医としていた利用者が多く、家族の希望も確認して、現在は利用者全員が母体医療機関をかかりつけ医としている。眼科や認知症専門病院等の受診は家族が付き添い、必要な場合には職員が同行することも可能である。母体医療機関は整形外科を診療科目としているため、毎月ホームでリハ会議を開催して利用者の状態に合わせたプランを作成し、個別リハにも力を入れている。月2回は主治医による訪問診療が行われ、母体医療機関から看護師の派遣が月に数回行われ、24時間連携体制が構築されている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>変化がみられた際には看護師へ報告し指示を仰ぎ必要な処置など受けている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院された際にはご家族様や連携室担当者へ連絡を取り、状態を確認しながら医院への報告を行い、できるだけ早期退院ができるように連携を図っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入所時に重度化した場合や終末期の対応について説明している。また利用者様の状態が悪化した場合など十分な説明を行いながらご理解いただいている。</p>	<p>重度化した場合と終末期についての対応に関わる指針を整備し、入居時と入居後も利用者の状態や家族の思いの変化に合わせて家族に説明し、意向を確認している。ホームでは看取りは行わず、可能な限り普段の生活環境の中で最期まで過ごせるように母体医療機関と十分に連携を図り、本人及び家族の思いに寄り添った支援に努めている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変時の対応について勉強会を行っている。また一連の流れについて電話近くに掲示しすぐに確認ができるようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年に二回の避難訓練に利用者様とスタッフが参加している。</p>	<p>地震・風水害に対応した「防災マニュアル」を整備し、年2回のうち1回は消防署立ち会いのもとで日中のみの想定で火災及び水害に対する避難訓練を母体医療機関や併設デイサービス事業所と合同で実施し、法人内で通報訓練等も実施している。職員の連絡網と連動している自動通報装置・スプリンクラー・消火器等を設置し、年1回は自主訓練も実施して防災への認識を高めていえる。備蓄は2ユニット一緒に水・食品等を準備して災害時献立を作成し、懐中電灯・カセットコンロ・衣類・おむつ等も用意して日頃から実践的な対応ができるように取り組んでいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の権利、人権を常に意識して適切な言葉遣いに気を付けている。スタッフそれぞれの対応で信頼を失うことがないように注意している。	「個人情報保護マニュアル」「プライバシー保護マニュアル」を作成して、接遇・倫理及び法令遵守と共に研修で理解を深め、居室やトイレ・記録物等のプライバシー保護にも十分配慮し、利用者の人格や感性を大切にされた支援に取り組んでいる。実習生やボランティア受入れの際の守秘義務等の説明、「きぼうのいえ便り」の写真掲載等に対して家族の同意を得るなど、適切な支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けを工夫しながら入浴のタイミングや着替えの選び方など一つ一つ自己決定ができるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のペースに合わせてながら声掛け、支援している。興味のある活動に参加できるように声掛けしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	コロナ禍の為実施できないときもあったが数か月に一度移動美容室を利用している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お盆拭きや食事の準備などできることを見つながら声掛けしている。	入居時に利用者の嗜好・アレルギー調査等を行い、法人の管理栄養士が作成した献立に基づき、平日の昼・夕食は母体医療機関で作られたものが届き、利用者の状態に合わせて刻み・ミキサー等の形態に工夫して提供している。誕生日・行事食・手作りのおやつなど、食べる楽しみを大切に支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は管理栄養士の指導もあり個別で対応している。水分も好みの熱さのものをお茶だけでなくORSなど提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事の後などは声掛けをしながら口腔ケアを実施している		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレでの排泄を促しながら無理強いすることなく排泄パターンを把握するようにしている。	排泄チェック表の活用と見守りやそつと声掛けして誘導する支援を通して、利用者毎の排泄パターンを把握し、日中はできるだけトイレでの排泄が可能となるように努めている。現在は布パンツ使用者が多く、身体状況や意向を十分把握して排泄用品や自立を目指したケアの方法等を介護計画に反映させて支援している。便秘対策として、乳製品・食物繊維・水分等の摂取や運動にも配慮して、できるだけ薬に頼らなくて済むように努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎回水分量を記録し、適度な運動ができるように心がけている。医師や栄養士に相談しオリーブオイルを活用している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	利用者様の体調を考慮しながら週に2～3回の入浴をしている。	週2～3回、午前中に個浴で実施しているが、排泄の失敗などの場合には、シャワー浴や清拭での対応も可能である。たんぼぼユニットにリフトが設置されたため、2ユニット全員の利用者がたんぼぼユニットで入浴している。シャンプー等は共用で、入浴剤を使用し、入浴後は保湿剤や軟膏塗布・水分補給を行い、入浴をためらう場合は無理強いせず声かけや時間等を工夫し、利用者の気持ちを大切に柔軟に対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	不眠時や体調に合わせて日中も声掛けをしながらベッド上で過ごしていただいている。着や布団に汚染がみられた際には都度更衣、交換している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別記録に薬剤情報を入れて常に目的や副作用を把握するようにしている。変更があった際には個人ファイルに記録している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事に関しては好き嫌いを把握し提供している。また季節感が味わえる食事やおやつに気を付けて提供している。			
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為ドライブが主になっている。天候を見ながら施設周辺を散策している。	現在はコロナ禍に配慮し感染予防のために園庭や近隣の散歩・テラスでのおやつ・他科受診・少人数でのドライブは実施できているが、その他は自粛している。外出を控えなくてはならないため、ホーム内でできることを工夫してリフレッシュを図り、機能訓練に取り組む時間が長くなり、丁寧になったと感じている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>ご家族様より預かっていることを伝え必要な時は買い物の代行をしている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>暑中お見舞いや年賀状を毎年恒例に出している。ほかに希望があるときは電話をかけたりにしている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>空調管理を行い利用者様が快適に過ごせるように調整している。展示物も季節を感じる事ができるように工夫している。</p>	<p>玄関や廊下にはホーム便りや作品・写真等が飾られ、リビングには花や観葉植物・ソファ・テーブル等が置かれ、明るくゆったりとくつろいで過ごせる空間づくりに努めている。換気は朝と昼食後に実施し、空気清浄機や加湿器が設置され、清掃や衛生管理にも配慮されて清潔感に満ちた環境である。平成29年よりすみれユニットで犬を飼い、利用者にとって癒しの時間となっている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>利用者様が落ち着いて過ごせるように食席など工夫している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室内には家族の写真を置いたり使い慣れた椅子やテレビなど置き居心地よく過ごせるように支援している。</p>	<p>居室は全室フローリングの洋室で、腰高窓からは季節の移り変わりを眺めることができる。エアコン・電動ベッド・たんす・洗面台が備えられ、利用者は使い慣れたコップ・箸・茶碗・毛布・テレビ・冷蔵庫・位牌・遺影等を自由に持ち込み、家庭同様に憩える暮らしとなるよう、快適な生活の維持に努めている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>居室やトイレの場所が一目でわかるように名札や張り紙をしている。</p>	/	/

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
		○	4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない